

厚生労働科学研究費補助金
障害者対策総合研究事業（障害者政策総合研究事業（精神障害分野））
アルコール依存症に対する総合的な医療の提供に関する研究
（研究代表者 樋口 進）

平成 28 年度総括分担研究報告書
家族のための対応や疾患についてのマニュアル作成
研究分担者 吉田 精次 社会医療法人あいざと会藍里病院 副院長

研究要旨：アルコール依存症者をもつ家族に対して不可欠な援助は、（１）アルコール依存症という病気について家族に正しく理解してもらえるような情報の提供、（２）アルコール依存症者に対してどのような対応をすればよいのかについての実行性のある情報の提供の２点に集約される。家族のために必要で十分な情報について、そしてその情報をわかりやすい形でいかに提供するかについて研究し、具体化する。そのために CRAFT の有効性について検証し、家族のためのマニュアルを作成し、啓発活動を行う。

研究協力者

小西友：藍里病院

A．研究目的

CRAFT（コミュニティ強化と家族トレーニング）の有効性について臨床的に検証し、家族のためのマニュアルを作成し、啓発活動を行う

B．研究方法

マニュアルを作成し、DVD を提供し、啓発活動を行う。

（倫理面への配慮）

個人が得る出来ないよう十分な配慮を行った。

C．研究結果

DVD は平成 28 年 6 月初めに完成し、全部で 2000 枚作製した。確実に視聴してもらうために全国の精神保健福祉センターには郵送したが、それ以外は研究者が行った CRAFT のセミナーの参加者に直接渡すことにした。配布したのは次の施設が主催したセミナーである。北九州市精神保健福祉センター、大分県こころと

からだの相談支援センター、大阪ダルクフリーダム、静岡県精神保健福祉センター、北九州ダルク家族会、兵庫県精神保健福祉センター、久里浜アルコール依存症臨床医研修、徳島・ギャングブル問題を考える市民公開講座、高知断酒サマースクール、中四国アルコール関連問題学会プレ企画、中四国アルコール関連問題研究会・徳島大会、日本アルコール関連問題学会・秋田大会、福島県精神保健福祉センター、国立精神神経医療研究センター・スマープ研修、岡山市こころの健康センター、香川ダルク CRAFT セミナー、大分県こころとからだの相談支援センター、鳥取県かかりつけ医等依存症（アルコール等）対応力向上研修、徳島保健所、徳島県自殺予防協会、徳島県精神保健福祉センター（以上、セミナー開催順）。

DVD はインターネット上で久里浜医療センターと藍里病院のホームページをアクセスすれば誰にでも視聴できるようにした。

D．考察

「家族支援は本人支援、本人支援は家族支援」とこれまで言われてきたように、アルコール依存症を含む飲酒問題を抱える本人の家族への

対応は極めて重要である。家族支援の目的は、家族への支援が適切に行われることによって、本人が治療につながり回復する、本人の問題行動が軽減する、家族自身が健康を取り戻す、の3点を達成することである。家族は本人の回復のための最も重要な資源であり、家族自身も健康になる必要があるという認識が大切である。

家族支援の具体的な業務としては 初回面接、継続的なサポート、アルコール依存症の理解を深め、効果的な対応法を学び、身につける機会の提供の3つがあげられる。

初回面接では家族の苦勞を受け止め、問題解決の希望があることを明確に伝える事がまず重要である。家族が相談に訪れたことで問題解決へ向けて動き出していることを説明し、本人が受診しなければどうしようもないという誤った悲観論を語ってはならない。どの治療も同様であるが、初回面接がその後の経過を決定づける。家族相談を決してなおざりにせず、担当医が丁寧に行うことが望ましい。問題の全貌を聴取すると同時に、苦しい思いを持ち続けてきた家族の心情を吐露できる場所になるべきである。家族がこれまでやってきた対応の間違いを指摘するだけでは、いたずらに家族が罪悪感と自責を増幅するだけで、本人や家族の回復にはつながらない。初回面接の後、3つの目的を達成するために家族相談を継続していくが、そのためには家族の問題解決への動機が強化されることが不可欠である。支援の焦点はアルコール依存症の理解と効果的な対応の課題に移っていくが、事態がすぐには好転しなくても、家族をサポートし続けていくことが重要である。家族向けの勉強会や家族会を定期的で開催していくことも大切である。

本人との対応を効果的に行うための考え方やスキルを家族に提供するためのツールとしてCRAFTを活用した。従来の家族支援では「相

手を変えようとしないうこと」「イネープリングを止めること」などが家族に提案されてきたが、「～しない」という提案ばかりで、家族がどうすればよいのかについての具体的なアイデアに乏しかった。CRAFTではこれまで家族がやってきたがうまくいかなかった方法に代わる効果的な方法を提案する。家族はこの問題についての正しい考え方と効果的な対応法を学んでいくが、CRAFTで重要視しているのは練習と実践を繰り返しながら家族がスキルを習得していくところまで援助することである。従来の技法よりも治療導入率が高く（従来型が10%～30%に対し、CRAFTは60%以上）、家族のメンタル面の改善効果が非常に高いことが報告されている。CRAFTは家族の動機づけ、問題行動の機能分析、暴力への対応、効果的なコミュニケーション、望ましい行動の強化、望ましくない行動を強化しない、家族自身が楽になる、患者に治療を提案するの8つのメニューで構成されている。～の具体的なスキルの習得を通して、相手との関係性を修正していくことで相手の行動に変化を生む。今日から始められることを発見し、練習し、実践する、やってみて問題があれば修正する、これを繰り返すことで家族は着実に力をつけていく。家族支援のみならず本人への治療・援助にも効果的な考え方とスキルが多く含まれており、治療者のスキルアップにも非常に役立つ。

今回CRAFTを活用して家族のためのマニュアルを作成したが、これまでの家族支援の限界性を克服できる内容になったと考える。

E．研究発表

1．論文発表

2．学会発表

日本アルコール関連問題学会秋田大会、
CRAFT ワークショップ

F . 知的財産権の出願・登録状況

なし